

利用ソフトウェア	QuickTimePlayer Pro for Windows		
授業名	マルチメディア表現	名前	湯川 治敏

QuickTimeとは狭義の意味ではAppleが開発した音声、動画、画像等を扱うことの出来るマルチメディア技術ということが出来るが、広義の意味ではマルチメディア技術だけではなく、メディアプレーヤとしてのQuickTimePlayerを含めて指す場合がある。QuickTimePlayerの特徴は本来のmovファイルフォーマットだけでなくAVIやMP4、携帯動画のフォーマットなども再生することが出来ることである。また、多くのビデオ機器等が動画フォーマットとしてQuickTimeを採用している。QuickTimePlayerはMac版、Windows版とも無料で配付されているが、全ての機能を利用するには有料版を購入する必要がある。図1と図2にはQuickTime PlayerとPro版とのメニューの違いを示す。図1は単なるQuickTimePlayerであり、メニューの所々に「PRO」の文字が見えるが、そのメニューはディム表示され、実行不可となっている。これに対して図2は豊橋校舎423教室等にインストールされたQuickTimePro for Windowsの画面であり、図1の「PRO」+ディム表示が無くなっている。つまり、この差がPROでの追加機能となる。具体的にはコンピュータに外部カメラ等を接続して動画の撮影や音声録音し、新たにQuickTimeフォーマットし

てファイルに保存することが可能となる。また、現存するビデオ映像を時間的にトリミングして新しいファイルに保存することも可能になる。一番求めていた機能としては現存のムービーファイルから他の解像度やビットレートを変えて新しいファイルを作成できる機能である。これは、マルチメディア関係の授業をする際には非常に有り難い機能である。これまではビデオ作品完成後、作品の解像度、ビットレート等を細かく変更するためにはフリーソフトウェアではあるがHandBreakeやSuper©などを利用する必要があった。もちろんWindowムービーメーカーなどでも多少は変更できるがあまり実用的なレベルではない。上記ソフトウェアは詳細な設定が可能であることが魅力であるが、詳細であることがかえって受講生を混乱させることに繋がると考えたため実際の利用は見合わせていたのが現状である。それに対してQuickTimeProでは「エクスポート」や「Web用にエクスポート」メニューにより各種解像度に簡単に設定でき、最終的なファイルもQuickTimeフォーマットであることからiTunesでの配信やiPod等への転送も非常に楽におこなえるようになった。非常に個人的な授業での要求の為に導入していただいたがお陰様

で説明の簡素化と作業の効率化が実現出来るのではないかと期待している。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	
PRO 新規 Player(N)	Ctrl+N
PRO 新規オーディオ録音(D)	Ctrl+Shift+N
ファイルを開く(O)...	Ctrl+O
URL を開く(U)...	Ctrl+U
PRO イメージシーケンスを開く...	Ctrl+Shift+O
最近使った項目を開く(R)	▶
ウィンドウを閉じる(C)	Ctrl+W
PRO 保存(S)	Ctrl+S
PRO 名前を付けて保存(A)...	
PRO 最後に保存した状態に戻す	
PRO エクスポート(E)...	Ctrl+E
PRO Web 用にエクスポート(W)...	
ページ設定(G)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
終了(X)	

図1: QuickTimePlayerのファイルメニュー

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)	
新規 Player(N)	Ctrl+N
新規オーディオ録音(D)	Ctrl+Shift+N
ファイルを開く(O)...	Ctrl+O
URL を開く(U)...	Ctrl+U
イメージシーケンスを開く...	Ctrl+Shift+O
最近使った項目を開く(R)	▶
ウィンドウを閉じる(C)	Ctrl+W
保存(S)	Ctrl+S
名前を付けて保存(A)...	
最後に保存した状態に戻す	
エクスポート(E)...	Ctrl+E
Web 用にエクスポート(W)...	
ページ設定(G)...	
印刷(P)...	Ctrl+P
終了(X)	

図2: QuickTimePlayerProのファイルメニュー